

氏名 林 建 彦

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 788 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和 51 年 9 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 マウス白血病ウィルスのヒト培養白血球への感染に関する研究
第 1 編 ヒトリンパ芽球様株細胞におけるEBウイルスとC型ウィルスの重複持続感染の成立
第 2 編 EBウイルスとC型ウィルスの重複持続感染系ヒトリンパ芽球様株細胞の異種移植

論 文 審 査 委 員 教授 大 藤 眞 教授 小 川 勝 士 教授 矢 部 芳 郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

マウスの白血病ウィルスである Rauscher 白血病ウィルス (RLV) をヒトのEB ウィルス感染系リンパ芽球様株細胞に感染させ、核酸構成の異なるC型RNA ウィルスとヘルペス型DNA ウィルスの重複持続感染に成功した。持続的に産生されるC型ウィルスはマウスに白血病を惹起しないが、その培養液上清はマウスにRLVに対する免疫性を与えることを明らかにした。次にこの重複持続感染系ヒトリンパ芽球様株細胞を抗リンパ球血清にて処置した新生児ハムスターに移植し、移植腫瘍にC型ウィルスの存在を電顕的に証明した。しかしこの株細胞は、RLV非感染細胞に比しハムスターに対する造腫瘍性が低下していることを認めた。この理由としてRLVを感染させることにより新しい膜抗原が生じ、細胞の抗原性を高めることが考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はマウス白血病ウィルスのヒト培養白血球への感染について研究したものであるが、従来不明確であったこの領域の実験成果について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。